

What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.1 3 October 2008

第5回研究会（合宿研究会）を開催

先端医療センター見学、他

11月15日（土）～16日（日）

この度の見学先は、「神戸医療産業都市構想」が始動して10年となる先端医療センターです。見学後の関西大学六甲山荘では、お世話になった先端医療振興財団の永井氏、および翌日講演を戴く人間工学の専門家を交え、充実した研究会となりました。見学先・講師とも、中本博幸・産学官連携センターコーディネーターの企画により実現したものです。

1. 先端医療センター見学



正面玄関で先端医療振興財団の永井氏から挨拶—内部は撮影禁止—

神戸市中央区の人口島であるポートアイランドの中ほどに位置する先端医療センターを、紀和副会長をはじめとする当会のメンバーを中心に17名が訪問しました。

先端医療センターは、医療機器の研究開発、医薬品の臨床研究支援(治験)、再生医療等の臨床応用の3つの分野において基礎から臨床への橋渡し機能を担う先端医療振興財団の中核施設です。また、センターの2階には先端医療センター病院(病床数60床)を備えており、標準的な医療では対応困難な疾病を克服するため先端医療を実施されています。

当日は、先端医療振興財団総務部の永井氏の案内でCTと

リニアックを一体化した高輝度放射線治療装置を見学しました。説明では、この装置から照射される放射線の副作用を少なくするため、極めて位置決め精度の良い放射線照射が可能になっており、ピンポイントのがん治療が出来るとのことでした。

また、高輝度放射線治療装置の見学後は先端医療振興財団の大石総務課長から、ポートアイランドにおける『神戸医療産業都市』の概要に関して説明を受けました。先端医療センターを中心とする“医療エリア”や理化学研究所を中心とした“研究開発エリア”以外にも神戸学院大など神戸市の複数の大学が設置される“教育エリア”があり、今後の発展が期待されます。

訪問後の18日には、政府の先端医療開発特区の採択24件中、2件が先端医療振興財団所属の研究者を代表者とする案件の発表があり、まさに国内最大級の医療・バイオクラスターに成長した姿を見学させて戴いたことに有難く思います。



先端医療振興財団・大石課長の説明

2. 研究会

見学後は六甲山荘において神戸牛のしゃぶしゃぶで交流を深め、翌16日、上記見学者に加えて参加者があり、総勢21名の聴講者に対し人間工学の専門家から次の2件の講演がありました。

(1) 『ドクターグリップの開発から福祉工学へ』 広島文教女子大学教授 宇土 博 氏

宇土教授は、30年以上に亘り民間企業の産業医をされていて、従業員の健康被害と職場の環境とが密接に関連があることに気づき、ボールペンを使って長時間字を書く人が罹りやすい腱鞘炎の場合は、細くて固いボールペンの代わりに太くて軟らかいシリコン樹脂などで出来たグリップを持つボールペンを使用することで、腱鞘炎を治すことが出来ることを明らかにされました。

また、このような特性を持つボールペンを『ドクターグリップ』と名付けられ、通常のボールペンに比べて価格が高いにも拘らず、ベストセラーになるほど売れている商品を世に出されました。

柿などの果実を切る鉏に関して、柔らかいグリップとばねの力を利用した『ドクターグリップ』のついた果実切り鉏を考案されています。さらに、講演に先立ち、前立腺や腰痛のつばを押さえる治療の実演などもあり、説得力のある講演とともに聴講者に感銘を与えました。



宇土先生の講演。倉田先生から質問と相談。受講者への治療の実演もありました。

(2) 『これからの健康管理について』 (社) 京都保健会吉祥院病院医師 中野浩一 氏



中野先生から豊富なデータを元に講演

高齢化社会が訪れようとしている今日、いかに健康に歳をとるかが問われています。特に、毎年の医療費が 30 兆円を越え、これ以上の医療費高騰は許されない状況です。医療費の抑制のためには、病気になったあとで治療するよりも、病気にならないような生活をするのが重要であり、このためには、生活習慣病を予防することが肝要であるとデータをもとに講演されました。

皆さん、失明の危険がある糖尿病や人工透析をする必要がある腎不全などの病気にかからないように、またメタボにならないように定期健診を受け、自分の BMI や血糖値などの諸数値を把握し、適正値の保持に努めましょう。



先端医療センター近くの展望台にて
—神戸空港などボーアイを一望—



宇土先生(左)から手のつぼへの
治療の実演—周りは熱心に見学—



六甲山荘にて; 広島から宇土先生のご
令室様も参加いただきました。

弁理士関大会 40 周年記念行事の開催、参加

10 月 25 日 (土)

—パネルディスカッションに寺内会長らパネリストとして参加—

弁理士関大会は、本年 40 周年を迎えたのを記念して、関西大学 100 周年記念会館で講演会とパネルディスカッションを約 60 名が参加して開催されました。

基調講演として杉本隆史・産学官連携センター長が「企業に期待する産学連携への取り組み方」をテーマに、約 1 時間講演されました。引き続いて開催のパネルディスカッションでは、「産学連携の現場と諸問題」をテーマに杉本隆史・化学生命工学部教授、寺内俊太郎・大阪冶金興業社長(当会会長)、田中久仁雄・産学官連携コーディネーター、および上代哲司弁理士が出席し、藤本 昇弁理士(当会会員)の司会進行で約 1 時間半行われました。

弁理士が特許などの権利化の業務の他に、「知的創造サイクルの進化」への参画の可能性について、パネリストそれぞれの立場から意見を述べ、具体的な提案など活発な議論が展開されました。



お知らせ

会員 2 社が「平成 20 年度戦略的基盤技術高度化支援事業」に採択
株式会社 棚澤八光社、および八田工業株式会社

この度、「中小企業ものづくり高度化法」に基づき、上記事業に会員から 2 社が認定されましたのでお知らせ致します。

皆さまとともに心からお祝いを申し上げ、益々のご発展をお祈り申し上げたいと存じます。

振興会のホームページ <http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>
関西大学 HP; 教育・研究*先端科学技術推進機構からご覧ください。

ASCIKU 関西大学科学技術振興会

Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University